

チーム医療によるリン値への患者意識変化

長崎腎病院

○川口利江 白井美千代 丸山祐子 山下万紀子 川内リカ 吉野秀章
江藤りか 一ノ瀬 浩 佐々木 修 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司
船越哲

【背景】

透析患者においてリン管理は優先される項目であるが、現在では保存食やファーストフードが多用されるようになり、食事のリン摂取制限は難しくなっている。

【目的】

多職種から構成される血清リン適正化のためのプロジェクトチームを立ち上げ、意識調査・啓発を通じて、患者のリンに対する意識・行動などに介入し、これが血清リン適正值に繋がるかを検討する。

【方法】

当院外来透析患者を対象とし、方法としては患者の生活背景と高リンへの意識調査、栄養指導回数と月別リン値変動、を2015年・2016年で比較検討した。

【結果】

当院維持外来透析患者299名（リン吸着剤内服患者142名：非内服患者157名）へ患者意識調査を行った。2015年5月に比べて2017年11月が有意にリンに対する意識が高く、リン制限している・高リンを知っている・リンが気になる回答が多かった。また、栄養指導回数は2015年7-9月：83件に対し2016年7-9月：46件と減少傾向にあった。血清リン適正值（4.0-5.5mg/dL）の割合も48%から58%に増加した。

【考察】

多職種のメンバーが統一した方法で、患者に継続的に介入したことで、患者の血性リン値に対する理解が深まり、服薬アドヒアランス向上にも繋がった事が示唆された。